

# 安全データシート

作成: 2009年 8月31日

改訂: 2024年 5月 8日

## 1. 製品及び会社情報

整理番号 : KF014-10  
製品名 : クミアイダコレート水和剤  
会社名 : クミアイ化学工業株式会社  
住所 : 東京都台東区池之端1-4-26  
担当部門 : サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課  
電話番号 : 03-3822-5180  
FAX番号 : 03-3823-6830  
緊急連絡先 : 平日 午前9時～午後5時 (電話番号03-3822-5180)  
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

## 2. 危険有害性の要約

### 化学品のGHS分類

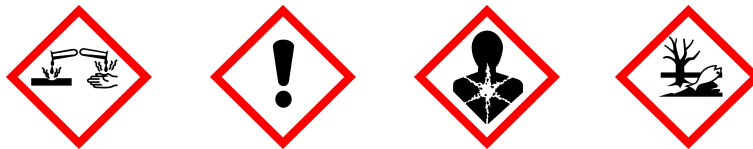
健康に対する有害性  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1  
皮膚感作性 : 区分1  
生殖細胞変異原性 : 区分2  
発がん性 : 区分1A  
生殖毒性 : 区分2  
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(呼吸器系、免疫系、腎臓)

環境に対する有害性  
水生環境有害性 短期(急性) : 区分1  
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分1

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

### GHSラベル要素

#### 絵表示



注意喚起語 危険

### 危険有害性情報

- ・重篤な眼の損傷
- ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- ・発がんのおそれ
- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- ・遺伝性疾患のおそれの疑い
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(呼吸器系、免疫系、腎臓)の障害
- ・水生生物に非常に強い毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

### 注意書き

#### 【安全対策】

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。

#### 【応急措置】

- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ・皮膚に付着した場合は、多量の水で洗うこと。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- ・気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
- ・クロロタロニル(TPN)への処置は4.応急措置を参照のこと。
- ・漏出物を回収すること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

#### 【保管】

- ・施錠して保管すること。

#### 【廃棄】

- ・内容物、容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

### 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名／一般名：メチル-1-(ブチルカルバモイル)-2-ベンゾイミダゾールカーバメート／一般名：ペノミル  
テトラクロロイソフタロニトリル／一般名：クロロタロニル(TPN)

成分及び含有量：	ペノミル	20.0%
	クロロタロニル(TPN)	50.0%
<その他>	結晶質シリカ(石英)	4.9%
	三酸化二ほう素	2.0%
	メチル=ベンゾイミダゾール-2-イルカルバマート(カルベンダジム)	0.4%
	界面活性剤、鉱物質微粉等	22.7%

化学式： C<sub>14</sub>H<sub>18</sub>N<sub>4</sub>O<sub>3</sub>／ペノミル  
C<sub>8</sub>Cl<sub>4</sub>N<sub>2</sub>／クロロタロニル(TPN)

官報公示整理番号：	化審法	(3)-1805	クロロタロニル
		(1)-71	三酸化二ほう素
		(1)-548	結晶質シリカ(石英)
安衛法		8-(2)-1345	ペノミル
		4-(7)-539	クロロタロニル

CAS No.:	1897-45-6	／クロロタロニル
	17804-35-2	／ペノミル
	10605-21-7	／カルベンダジム
	1303-86-2	／三酸化二ほう素
	14808-60-7	／結晶質シリカ(石英)

### 4. 応急措置

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で十分に洗眼し、医療措置を受ける。

クロロタロニルの眼症状には、対症療法が有効である。

皮膚に付着した場合：汚染した衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨て、製品が付着した部分を水又はぬるま湯で十分に

洗い流す。石鹼を用いると症状が悪化する場合がある。

クロロタロニルの皮膚症状には、ステロイド剤の投与が有効である。

吸入した場合：被災者を直ちに新鮮な空気の場所に移動し、衣服をゆるめて深呼吸させる。汚染された衣類や保護具を取り除く。多量に吸入した場合は、直ぐにはなにも症状が認められなくても、必ず医師の診断を受ける。

クロロタロニルの呼吸器症状には、ぜん息対症療法が有効である。

飲み込んだ場合：被災者を安全な場所に移動し、直ちに医療措置を受ける。口の中に残っているものはぬぐったりして除去した後、多量の水や牛乳を与えて吐き出させる。ただし被災者に意識の無い場合はものを与えたり、吐き出させたりしてはならない。

## 5. 火災時の措置

消火方法：初期の消火には粉末、炭酸ガス消火器、乾燥砂などを用いる。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

適切な消火剤：霧状水、強化液、泡、二酸化炭素、ハロゲン化合物、消火粉末を放射する消火器

使ってはならない消火剤：情報なし

消火活動上の注意：燃焼又は高温により有毒なガス（一酸化炭素、窒素酸化物、塩化水素等）が生成するおそれがあるので、呼吸保護具を着用する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：作業の際には保護具（8. ばく露防止及び保護措置欄参照）を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵を吸入しないようにする。

環境に対する注意事項：水産生物（魚類）に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に飛散、流入しないよう適切に処置する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。真空掃除機で吸い取るなど粉塵が飛散しない方法で取り除く。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

技術的対策：設備の密閉化、局所排気装置や全体の換気設備等を設けること。

取扱い上の注意：取り扱いには換気のよい場所で行い、漏れ、あふれ、飛散がないようにし、みだりに粉塵を発生させない。皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないようにする。

火災・爆発の防止：通常の保管方法で問題無し。

保管上の注意：直射日光が当たらない冷暗所に保管し、異種物質の混入を避け、火気、熱源から隔離する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度：鉱物性粉じん  $E=3.0/(1.19Q+1)$

E：管理濃度(mg/m<sup>3</sup>) Q：当該粉じんの遊離けい酸含有率(%)

(作業環境評価基準 平成21年厚生労働省告示第195号 平成21年3月31日)

許容濃度：結晶質シリカ(吸入性粉じん) TLV-TWA 0.03mg/m<sup>3</sup>(日本産業衛生学会2023年度)

設備対策：取り扱いについては、密閉された装置、機器を使用し、局所排気装置を併用する。有害物が環境中へ放出されないように、排気装置には除害設備を設ける。

保護具 呼吸用保護具：防じんマスク(例；JIS T8151に適合する防じんマスク等)

保護手袋：ゴム手袋

保護眼鏡：側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型

保護衣：作業着、帽子、保護服(不浸透性)等、保護クリーム

## 9. 物理的及び化学的性質

外観等 : 類白色水和性粉末

臭い : データなし

pH (10倍希釈液) : 4.0~7.5 (参考値 6.3)

融点/凝固点 : データなし

沸点又は初留点及び沸騰範囲 : データなし

引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限及び爆発限界上限界／可燃範囲	: データなし
相対ガス密度	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	: 0.18～0.30(見掛け比重)
溶解度	: データなし
n-オクタノール／水分配係数(log値)	: データなし
分解温度	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子性状(粉末度)	: $\geq 99\%$ ( $\leq 45 \mu\text{m}$ )

#### 10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の保管環境下で安定
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 情報なし
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: 情報なし

#### 11. 有害性情報

急性毒性(経口)	: ラット LD <sub>50</sub>	$\geq 5000 \text{ mg/kg}$
急性毒性(経皮)	: ラット LD <sub>50</sub>	$\geq 5000 \text{ mg/kg}$
急性毒性(吸入:ガス)	: 区分に該当しない	
急性毒性(吸入:粉じん)	: データなし(分類できない)	
皮膚腐食性／刺激性	: 混合物としてのデータないが、ベノミル含有剤およびTPN含有剤の知見から区分に満たない刺激性は想定される。(区分に該当しない)	
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 混合物としてのデータないが、ベノミル含有剤およびTPN含有剤の知見から重度の刺激性が想定される(区分1)	
呼吸器感作性	: データなし(分類できない)	
皮膚感作性	: 混合物としてのデータないが、ベノミル含有剤およびTPN含有剤の知見から軽度の感作性が想定される。(区分1)	
生殖細胞変異原性	: 結晶質シリカが区分2に分類されることから区分2とした。	
発がん性	: 結晶質シリカが区分1Aに分類されることから区分1Aとした。	
生殖毒性	: 区分2に分類されるクロロタロニルを3%以上含有することから区分2とした。	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: データ不足により分類できない	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 結晶質シリカとして、区分1(呼吸器系、免疫系、腎臓)	
誤えん有害性	: データなし(分類できない)	

#### 12. 環境影響情報

生態毒性 魚	: (コイ)LC <sub>50</sub>	0.4 mg/l (96時間)
甲殻類	: (オオミジンコ)EC <sub>50</sub>	0.38 mg/l (48時間)
藻類	: EC <sub>50</sub>	1.25 mg/l (72時間)
残留性・分解性	: データなし	
生体蓄積性	: データなし	
土壤中の移動性	: データなし	
オゾン層への有害性	: データなし	
その他	: 水産生物(魚類)に強い影響がある。 蚕に対して影響がある。桑葉にかからないように注意する。	

### 13. 廃棄上の注意

使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。容器の洗浄水等は河川に流さない。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後処分する。

### 14. 輸送上の注意

移送取扱いは丁寧に行う。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類 : クラス9(有害性物質)容器等級Ⅲ

国連番号 : 3077(環境有害物質、固体、n.o.s.)

国内規制

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

陸上規制情報 : 道路法、消防法、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法律に従う。

緊急時応急措置指針 : 171

### 15. 適用法令

農薬取締法 : 登録番号 第14493号

消防法 : 非該当

労働安全衛生法

施行令第18条、第18条の2(表示、通知対象物質)

: ベノミル(政令番号436)

: 結晶質シリカ(政令番号165-2)

: 三酸化二ほう素(政令番号196)

: カルベンダジム(別表第9の591の2)(2024年4月1日施行)

: テトラクロロイソフタロニトリル(別名クロロタロニル又はTPN)(2023年9月28日  
改正安衛則別表第2の1251)(2025年4月1日施行)

安衛則第 577 条の2(がん原性物質)作業記録等の30年間保存対象物質

: 結晶質シリカ(石英)

安衛則第594条の2(不浸透性の保護具等、適切な保護具使用の義務)

: 皮膚刺激性有害物質 ベノミル

: 皮膚刺激性有害物質 テトラクロロイソフタロニトリル(別名クロロタロニル)

粉じん障害防止規則 別表第1 : 第11項 該当

化学物質排出把握管理促進法 : 第一種指定化学物質 クロロタロニル(TPN)(管理番号260)

(PRTR法) : 第一種指定化学物質 ベノミル(管理番号360)

: 第一種指定化学物質 ほう素化合物(管理番号405)

毒物及び劇物取締法 : 非該当

水質汚濁防止法 : 指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3第32号)テトラクロロイソフタロ  
ニトリル(別名クロロタロニル又はTPN)

: 指定物質(法第2条第4項、政令第2条第24号)ほう素及びその化合物

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 特別管理産業廃棄物 クロロタロニル

### 16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。

使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

- 引用文献:
- 1) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法
  - 2) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針  
2019年6月 社団法人 日本化学工業協会
  - 3) 農薬中毒の症状と治療法 第19版 2022年4月 農薬工業会
  - 4) GHS文書 改訂第6版(2015年)
  - 5) 資材メーカー提供「安全データシート」

#### 作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大 阪 (年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	072-727-2499
	医療機関専用有料電話	072-726-9923
つくば (年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	029-852-9999
	医療機関専用有料電話	029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。

※ 弊社製品に関する問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の利用料(1件 2,000円)は弊社が負担いたします。